



大津波から従業員を守った築山

宮城県仙台市日鐵住金建材株仙台製造所

平成23年（2011年）3月11日14時46分、三陸沖を震源とする日本国内観測史上最大M9.0の大地震が発生しました。仙台製造所も震度6強という、誰もが経験したことのない非常に大きな揺れに見舞われました。所員は、平成15年に制定した避難マニュアルのとおり5分後（14：51頃）には『築山』に避難しました。地震と同時に停電となったため、製品倉庫天井クレーン運転手6名は揺れの納まった瞬間を狙い、ガーター上を歩き15分後に『築山』で合流しました。社員と協力会社合わせ当日出勤者76名全員避難を完了しました。

避難マニュアルには、物的事故・出火や地震などの異常現象発生に伴う避難経路・方法・注意事項・処置方法を定めていました。

『築山』とは、仙台製造所の建設時に建屋柱や設備設置時に掘り起こした残土を処分費用の削減、蒲生地区住宅地への防音対策として幅30m、長さ200m、高さ5mに積み上げた人工の山です（GL5

m + 5 mで海拔10m）。

1 仙台製造所の避難マニュアルの歴史

昭和52年4月（1977年）：操業開始
防災訓練マニュアル作成（当時は火災を中心）

平成15年7月（2003年）：宮城県沖地震を想定しマニュアルに地震・津波対策を加えた。

2 地元消防署から受けた助言として

＜防災訓練時・敷地内防災無線設置時に受けた指導として＞

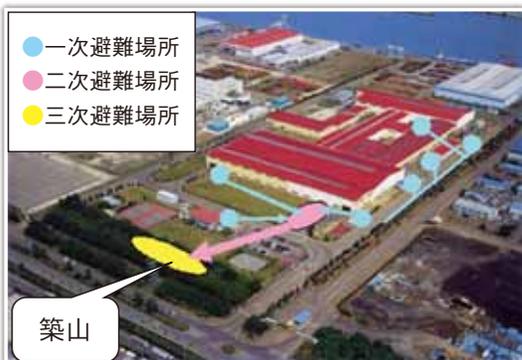
- ①絶対に車で逃げない→大渋滞する
- ②避難場所から離れない→会社で一番高いところ……

所員・協力会社の人全員が一度に避難できる場所が『築山』でした。

3 仙台製造所の避難マニュアルとは

＜大きな地震（揺れ）を感じたら＞

- ①ライン・設備停止（生産を止める）……
各オペレーターの判断にて



製造所全景と築山



築山での避難状況

- ②地震（揺れ）がおさまったら、職場毎の工場外屋外の一次避難場所に集合し点呼をとる
- ③職場単位で二次避難場所（グラウンド）に集合（職場毎に人数の報告）
- ④全員が揃ったら、事務所南側の『築山』に避難（三次避難）

4 震災を受けて

毎年一回（11月）の訓練では、地震発生の避難開始から各避難場所で点呼、被災状況報告を実施し、三次避難場所の『築山』には5分で所員全員が避難完了できるようになっていました。今まで経験したことのない今回の地震の際にも、日頃のマニュアルどおりに避難できたのは、訓練を毎年重ねることで所員全員が動き（行動）を、身体が自然に覚えるようになった良い意味“マンネリ化”の訓練になっていたからです。

しかも、しっかりとした避難マニュアルがあり、常に反省点を確認しマニュアルに反映、その内容も全員へ周知徹底され、訓練とはいえ真剣に実施してきたからこそこの結果です。

築山に避難開始してから、仙台市津波情報伝達システム（スピーカー）より、大津波警報発令のアナウンスが流れる中、津波なんて絶対に来ない、という気持ちがあり、途中で自宅に帰りたいとの意見も出されましたが、地震直後から本社と電話連絡を切らず連絡を取り合っており、本社より「津波が来そうだ、しかも10m級のが。築山を離れないように。」との指示を守りその場を離れませんでした。15：57頃、轟音と共に津波が蒲生方面から押し寄せてきました。家屋・瓦

礫・車が津波に乗って押し流されてくるのが見えました。地鳴りがだんだん近づき、パニックの中、木に掴まる者、登る人など、その瞬間を待ちました。結果として『築山』天辺まで津波が押し寄せることはありませんでした。5分後には『築山』周辺は海水で満たされ完全に陸の孤島となりました。『築山』への避難者は私達76名の他、近隣住民、通行人三十数名も加わりましたが、一人の犠牲者も出ませんでした。大津波がまた来るかもしれない不安と寒さの中、一晩『築山』で過ごしました。翌朝、自衛隊に案内され『築山』を離れ、それぞれの家路につきました。

現在は、夜勤時の災害発生に備え、工場内が全停電したことを前提にし、手元には懐中電灯を常備、出入口ドア全てに懐中電灯、ソーラ式照明設備設置、構内避難通路は常に3S（整理・整頓・清掃）を実施、夜間の避難訓練も実施しています。

さらに、震災復旧後に製造所事務所棟の隣へ、当社製品による津波避難タワー（GL11m、海拔16m、200名収容）を設置、三次避難場所に決めています。この津波避難タワーは、仙台市と協定を結び地域住民などの避難場所にも指定されています。

『築山』には、被災後お社を建て、被災経験を忘れない、また被災経験のない後輩達へ継承するようにしています。そして毎月の安全祈願を実施しています。

今後も地域一体となった避難訓練等を実施し、安心して働ける街づくり、安心な地域づくりに貢献、また防災に強い製造所、企業を目指し努力してまいります。